

閲覧資料紹介  
『横浜の映像』(一九六九年刊)



書名から連想されるものは動画やフィルムが目録のようなものであろうが、サブタイトルに「雇用と定着のための3つの調査から」とあり趣が異なる。本書は、大工場・中小工場を擁した横浜市が、高度成長期に毎年一万人近く受け容れた集団就職者についての、三つの調査をまとめたものである。東京五輪ののち、高度成長も後半期を迎えて一定の豊かさをかなえた時代であった。1968年には中卒者の給料が二万円をこえた。しかしホワイトカラー指向の高まりから進学率が上がり、中卒の「金の卵」は減少。またいったん就職しても早期に離職する傾向もあり、労働力として定着させることが横浜市の課題であった。

第一章は「横浜市に対する意識調査」であり、68年に刊行された報告書の再録。内容については、百瀬敏夫「昭和四三年横浜のイメージ」(『市史通信』第二四号/二〇一五年)が詳しく。調査は六九年三月卒業予定の全国三〇〇〇名の横浜イメージの調査であり、「港の町」「外国人の多いエキゾチックな町」などと認識する一方で、「暴力の町」「暗い町」などとネガティブにとらえている者が少なからず存在していることを指摘する。飛鳥田市長は「横浜を見直す」と題した本書の巻頭言で、「横浜も、いまや港に関係のない丘陵部まで市域がすっかり広がってしまいました。とくに最近の工場進出は、港から遠く離れた郊外地に集中しているため、ここに就職する青少年がイメージと現実とのギャップに不満をもつのではないかと心配になりました」と記した。

第二章「集団就職者の意識調査」は滞在八ヶ月をへた集団就職者の市民意識を調査したもの。外からも見て横浜が魅力的であるとした調査も、横浜に入ってみたところ「魅力なし」「わからない」が六割を占めていたことなどが留意点とされた。

第三章「集団就職者の実態調査(面接調査)」は労働実態・生活実態をとくに面接によって記録したものである。横浜市の集団就職者調査は、『横浜の映像』以前では、『横浜市における流入勤労青少年実態調査報告書』(一九六五年刊)があるが「集団」以外も含まれる。また『集団就職者の追跡調査結果報告書』(一九七〇年刊)や追跡調査の最終報告書として『集団就職者は訴える』(一九七三年?)が刊行されている。(平野正裕)

《市史資料室たより》

【横浜市史資料室ミニ展示】

【YOKOHAMA 1968

-50年前、日本が最も熱かったあの1年-

会期：9/20(木)～31年1/11(金)

時間：午前9時30分～午後5時

◎入場無料

会場：横浜市西区老松町1番地

横浜市中央図書館地下1階

横浜市史資料室展示コーナー

特別協力：神奈川新聞社

資料提供：(株)アルタミラピクチャーズ

激動する世界と日本のもとで体験した、都市ヨコハマと大衆文化の変貌を紹介します。

【展示会「横浜の昭和を生きた人びと」が終了しました。】

①展示会

7/14(土)～9/17(月・祝)の64日間5440人の方にご見学いただきました。

「資料提供者とその家族の歴史が訴えかけてくる。ただの写真展ではなく暮らしぶりや思いが伝わってきた」、「家族という身近なことを通して、一つの時代が知れました」などのご感想をいただきました。

②展示関連講演会

「家族の記録から見る横浜の近現代史」

8/25(土)に開催し102人の方にご参加いただきました。

第一部では展示会「横浜の昭和を生きた人びと」のスライド上映による展示解説、第二部では「昭和戦前・戦中期、横浜の都市生活誌～磯子区の時計屋さんの日記から探る世相と家族～」、「戦地から送られた家族への便り」の2つの講演を行いました。

「個人資料に息が吹き込まれ、語りかけてくるような感動を受けました」など満足したという声を多くいただきました。

③展示解説



8/1(水)9人、9/9(日)29人にご参加いただきました。上の写真は9/9(日)の様子です。

【寄贈資料】

①清水清子様

『海軍大演習観艦式記念』絵はがき帳  
大正元年11月12日横浜市発行 1件

②鈴木久子様

鈴木久子家資料追加 52件

③下島哲朗様

「象詩人クラブ」看板他 5件

④板倉春代様

山極五郎旧蔵資料 1件

⑤末次京子様

大阪毎日新聞社編『関東大震災画報』  
第1,3巻他 3冊

【資料提供のお願い】

当資料室では昭和期の横浜に関する国内外の資料の収集・保存・調査研究および公開を行っています。昔の街並みや行事の写真、古い絵はがき、パンフレット、ポスターなど横浜を記録した資料をお持ちの方はぜひ御連絡ください。次世代の市民に引継ぎます。

◇ 休室日のご案内 ◇  
12/17(月)、12/28(金)～1/4(金)、  
1/15(火)、2/12(火)、3/18(月)